施策評価シート(令和7年度実施施策)

総合計画体系	政策№	5	政策名	学びあい未来を拓く人づくり	施策主管課	生涯学習課
	施策№	5-4	施策名	地域文化の振興	施策主管課長名	小林　隆浩
関係課	生涯学習課					

1．施策の目的

対象	A 文化財・地域の歴史文化 B 地域 C 町民	意図	A 適切に保存され、その価値を損なうことなく活用されている B 地域の歴史文化に魅力を感じ、保存・継承している C 地域の歴史文化を学び、その魅力を情報発信している

2．成果指標　　**上段：目標値　下段：実績値**

	指標名	単位	現状値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
①	A 町内文化財の保存・活用事業の件数（増加）（現状値：H30時点）	件	131	190	190	190	204	207
				126	146	122	169	171
②	B 地域の歴史や文化財に親しむ機会を持った方の人数（増加）（現状値：H30時点）	千人	1.25	1.31	1.38	1.44	1.51	1.57
				1.39	1.86	2.3	3.21	3.3
③	C 町の歴史文化に興味・関心のある町民の割合（増加）（現状値：H30時点）	%	10.2	12.5	14	15.5	17	18.5
				7.5	9.9	12.5	17.9	18.6
④								

3．指標の分析（成果が向上した、またはしなかった理由）

①	計画期間における実績値は、一時的な低下を挟みながらも全体としては上昇傾向となったが、毎年度目標値には届かなかった。令和７年度は対前年度比２件の増となったが、目標値には36件届かなかった。 郷土資料館を核とした文化財に関する全イベントの実績件数自体は上昇傾向ではあるが、出前講座のような町民からの要望に対するイベント数が少なかったことから、目標値を下回ったものと考えられる。
②	計画期間の実績値は上昇傾向にあり、令和７年度は対前年度比約100人の増となり、目標値を1,730人上回った。 郷土資料館によるイベントをさらに充実させたことや人気イベントが定着しつつあることで、理解度と充実度が高まり目標を達成したものと考えられる。
③	計画期間の実績値は上昇傾向にあり、令和７年度は対前年度比0.7ポイントの増となり、目標値を0.1ポイント上回った。 郷土資料館への入館者数が令和６年度の844人に対して令和７年度は1,172人と約330人増加し、うち町民が約200人増加していることから、町民の関心度が向上していると考えられる。
④	

4．課題に対する取組（今年度重点的に取り組んだ課題）

・郷土の歴史や文化についての調査・研究においては、「地域再発見事業」により地域の歴史について地元の方々と座談会形式で共有したことにより、地域の再発見につながり、歴史・文化についてより関心を持ち、郷土愛を育む意識の向上を図ることができた。
・向羽黒山城跡保存活用計画書の策定にあたっては、２年間による完成には至らなかったが、適切な保存活用について策定委員会や文化庁、県文化財課と協議を重ねて取り組み、計画書の骨子を構築することができた。
・芸術文化の振興については、プロの演奏家によるコンサートの開催や町総合美術展、ジュニア文芸表彰などのイベントを継続して開催したことで、町民が優れた芸術を鑑賞し五感で体感する経験を経て、芸術文化に対する関心と理解を深めることができた。

5．次年度の方向性（施策の方向性と次年度以降重点的に取り組む課題）

この施策は、第４次総合計画においては、地域文化の振興（施策４-３）に引き継がれる。
町民の郷土愛を育むため伝統芸能の継承活動等に対する継続的な支援を行い、地元の歴史文化に誇りを持てるよう、町内の文化財に関する調査・研究を推進し、その成果を活用した情報発信事業を引き続き展開する。
また、郷土資料館のイベントにおいては、既存の人気事業を軸としながら、参加者のニーズに応じた内容の改善を継続的に行い、イベントへの理解度と充実度の最大化を図る。
さらに、向羽黒山城跡保存活用計画の策定を完了させ、本町における今後の保存活用の方向性を明確に示す。

６．施策を構成する事務事業（方向性と次年度以降重点的に取り組む主要な事業）

番号	事業通番	事務事業名	令和7年度決算額(千円)	最終評価結果			主要事業
				成果の方向性	コストの方向性	今後の方向性	
1	5506	地域文化振興事業	2,200	現状維持	現状維持	⑤現状維持	○
2	16760	遺跡調査・整備事業	6,325	拡充	現状維持	②生産性改善	
3	16761	文化財保存・活用事業	18,337	拡充	現状維持	②生産性改善	○